

令和 3 年 5 月 28 日現在

機関番号：34310

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16H03481

研究課題名(和文)日韓外交正常化交渉および戦後日韓関係に関する基礎的研究

研究課題名(英文)Basic research on Japan-Korea normalization negotiations and postwar Japan-Korea relations

研究代表者

太田 修(OTA, OSAMU)

同志社大学・グローバル・スタディーズ研究科・教授

研究者番号：00351304

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 7,700,000円

研究成果の概要(和文)：日韓外交正常化交渉に関連する日本側文書の検索システム「日韓会談文書情報公開アーカイブズ」を構築し、2020年3月にNGO「日韓会談文書全面公開を求める会」HP上で公開した。また、日韓関係を国家対国家の外交関係に限定するのではなく、植民地支配・戦争の経験と記憶、人とモノが往来しつつも衝突する地域、交流し省察する知などの日韓の諸関係を、植民地主義と冷戦の側面から描き直し、その成果を『植民地主義、冷戦から考える日韓関係』として公刊した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

日韓会談文書の検索システム「日韓会談文書情報公開アーカイブズ」を構築しWEB上で公開することによって、研究者や市民が日韓会談文書を利用しやすくなった。また、従来の日韓関係研究が国家対国家の外交関係研究に集中する傾向があったのに対して、本研究では、植民地支配・戦争の経験と記憶、人とモノが往来しつつも衝突する地域、交流し省察する知など日韓の諸関係を植民地主義と冷戦の側面から描き直し、既存の研究とは異なる日韓関係を提示することができた。

研究成果の概要(英文)： We have built the “Nikkan Kaidan Bunsyo Joho Kokai Archives” that serves as a search system for Japanese documents related to Japan-Korea normalization negotiations and released it on the website of the NGO “Nikkan Kaidan Bunsyo no Zenmenkoukai wo Motomeru Kai (The Citizen’s Group for Full Disclosure of Japan-ROK Normalization Documents)” in March 2020.

In addition, we have expanded the field of Japan-South Korea relations beyond state-to-state diplomatic relations to include such aspects as colonial rule/war experiences and memories, places where people and goods collide while they come and go, and intellectual exchange and reflection, re-examined them in the context of colonialism and the Cold War, and published the findings in the book titled The Japan-South Korea relations from the perspective of colonialism and the Cold War.

研究分野：朝鮮近現代史、近現代日朝関係史

キーワード：戦後日韓関係 冷戦 植民地主義 日韓外交正常化交渉 日韓条約 日韓会談文書 検索システム 請求権問題

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

韓国の強制動員被害者らの行政訴訟により、2005年に韓国側の日韓国交正常化交渉（日韓会談）関連文書約3万6千枚が開示された。日本では、同年に結成されたNGO「日韓会談文書・全面公開を求める会」（以下、「求める会」）の文書公開要求運動により、2014年までに日本側文書約6万枚が開示された。この日本側文書は「求める会」ホームページ上ですべて閲覧できるが、その分量が多いため利用者は閲覧したい文書に容易にたどり着けないという難点があった。それを解決するためには、誰もが閲覧したい文書に簡単にアクセスできる検索システムを構築し、それをウェブサイト上で公開することが必要ではないかという問題意識が、研究代表者や「求める会」のメンバーの間で共有されていた。

戦後日韓関係研究においては、既存の研究が、日韓関係を国家対国家の外交関係として描く傾向があり、そうした研究の趨勢を克服する必要がある。すなわち日韓関係は、外交関係としてのみ構成されていたのではなく、例えば、植民地支配・戦争の経験や記憶、人やモノの行き来、日韓条約締結後の交流などの諸関係としても展開したのであり、そうした諸関係をも明らかにすることが課題としてあった。とりわけ研究代表者は、外交関係以外の日韓の諸関係を、植民地主義と冷戦の側面から検討し、それらを東アジアおよび世界の歴史に接続して叙述する必要があると考えていた。

2. 研究の目的

本研究は、戦後日韓諸関係（本研究では1945年から1970年代まで限定する）に関する基本的な資料を整理・検討することにより、戦後日韓関係史研究の基盤を形成することを目的として開始された。とりわけ、2006年から2014年までに公開された日本側日韓会談関連文書の検索システムを構築し、植民地支配・戦争の経験や記憶、人やモノの行き来、日韓条約締結後の交流などの日韓間の諸関係を、植民地主義と冷戦の側面に注目して検討することにより、戦後日韓関係史の基礎的研究を行うことを重視した。そして最終的には、日韓会談文書の検索システムをウェブ上に公開すること、および共同研究の成果を論文・単行本にまとめて公刊することを目指した。

3. 研究の方法

上記の目的を達成するために、本研究では以下のように作業を進めた。

- (1) 日韓会談および日韓諸関係に関連する文献を収集し、整理する。
- (2) 日韓会談および日韓諸関係に関連する人々にインタビュー調査を実施する。
- (3) 「求める会」ホームページで公開されている日韓会談文書を再整理し、その書誌情報（文書番号、文書名、作成年月日、文書のキーワード、文書の内容、文書の形態など）をデータベース化し、検索システムを構築し、公開する。
- (4) 定期的に関われる研究会、および最終年に開催される国際シンポジウムにおいて、研究成果を報告する。またそこでの研究成果を論文、または単行本にまとめて公刊する。

4. 研究成果

(1) 日韓会談文書検索システムの構築

「求める会」ホームページ上で公開されている1916ファイル（約6万枚）の日韓会談文書の書誌情報をデータベース化する作業（データ入力、データの点検、文書のPDF化など）を行っ

た。これらの作業を推進、調整するため、研究代表者と「求める会」メンバーは、7回にわたって「日韓会談文書アーカイブズ構築準備会議」を開催した。

こうした作業の結果、2020年3月31日には「日韓会談文書情報公開アーカイブズ」(<http://www.f8.wx301.smilestart.ne.jp/nikkankaidanbunso/index.php>)を構築し、それを広く社会に公開することができた。同年8月8日には、日韓会談文書1916ファイル(約6万頁)を検索できるシステムの稼働を本格的に開始し、本科研で計画した日韓会談文書検索システムの構築、および公開を完了した。

(2) 戦後日韓関係研究の深化

COVID-19の世界的感染拡大により、最終年度に予定していた公開国際シンポジウムは開催できなかったが、予定していた全15回の研究会を京都(同志社大学)とソウル(おもに民族問題研究所)で開催できた。研究会では、研究代表者の太田修、研究分担者の板垣竜太、福岡正章、宮本正明、研究協力者の洪宗郁、宋炳巻、金丞垠、成田千尋、西村直登、申載浚が報告した。

2021年3月には、本科研の研究成果として、太田修編著『同志社コリア研究センター叢書4 植民地主義、冷戦から考える日韓関係』(同志社コリア研究センター)を公刊した。その概要は以下のとおりである。

本書は三部で構成されている。第一部は、日韓会談の前後に作成された史資料や上記の日韓会談文書を用いた研究からなる。西村直登論文は、1953年頃に日韓会談に向けて作成されたと推定される「日本震災時被殺者名簿」に注目し、その内容と作成経緯について論じた。申載浚論文は、日韓会談において日韓両国が相互に異なる立場から経済「協力」を志向していたが、最終的には「日本の意図(請求権の解決)」が貫徹され、「韓国の意図(貿易不均衡の改善)」が挫折した過程を描いた。宮本正明論文は、筆者が古書肆で入手した新資料や日韓会談文書などをもとに、財産請求権問題における「解決」対象の「処理消滅」を定めた法律第144号の成立過程を明らかにした。

第二部には、冷戦下の地域と経済について論じた研究を収録した。板垣竜太論文は、京都韓国学園の銀閣寺用地移転が頓挫した事件から、韓国学園と韓国政府の思惑、銀閣寺周辺の地域社会が抱えていた問題、冷戦イデオロギーなど、複数の歴史的脈絡が交差した構造を明らかにした。成田千尋論文は、沖縄の韓国人慰霊塔が1975年に建立されるまでの経緯を、沖縄と韓国を規定した冷戦体制を軸に、復帰前後の沖縄の社会状況、慰霊塔建設に関与した複数の組織や個人、北朝鮮政府の認識にも注意をはらいながら論じた。福岡正章論文は、「敗戦」「解放」直後から1950年代にかけての日韓の密貿易の実態をさぐり、貿易の形態や取引された商品について、植民地期との連関、冷戦下での変容の有り様を検討した。

第三部は、近代および植民地支配に対する知識人や市民の認識、省察について論じた論考を集めた。宋炳巻論文は、アメリカの対朝鮮政策文書の作成過程に大きな影響を及ぼしたとされる、グラッドンチェフ(Andrew J. Grajdanzev)の植民地朝鮮経済に関する著作『現代朝鮮(Modern Korea)』とその書評を分析し、アメリカの戦後信託統治構想につながる植民地朝鮮認識の原型を探った。洪宗郁論文は、1960年代初頭の日本に台頭した近代化論に対抗する議論として、ナショナリズムやアジア主義に込められた民衆のエネルギーに可能性を見出した竹内好と梶村秀樹の「民衆の発見」について論じた。太田修論文は、1973年金大中拉致事件後に日本で起こった救援運動が、当初はナショナルな主権侵害論によって展開されたが、しだいに日本社会変革論と植民地支配責任論による日韓連帯運動へと変容していった様相を描いた。

以上により、植民地支配・戦争の経験や記憶、人やモノの行き来、日韓条約締結後の交流などの諸関係の一側面を、植民地主義と冷戦の視点から検討し、既存の研究とは異なる新たな日韓関

係像を提示できたのではないかと考えている。また上記の諸成果は、東アジア、および世界史に接続する叙述という面でも、ある程度成功したものと総括している。

本書を同志社大学図書館リポジトリで閲覧できるようにし、研究成果を広く一般社会に公開した。これをもって本科研で予定していた研究はすべて完了した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計31件（うち査読付論文 19件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 太田修	4. 巻 第222号
2. 論文標題 真実は究明されたか 日韓会談における韓国強制動員被害者問題	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 朝鮮史研究会会報	6. 最初と最後の頁 1-4
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 太田修	4. 巻 No. 992
2. 論文標題 韓国大法院判決と再現する暴力について	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 歴史学研究	6. 最初と最後の頁 36-45
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 太田修	4. 巻 129号
2. 論文標題 韓日請求権協定「解決済み」論批判	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 歴史批評（韓国・歴史問題研究所）	6. 最初と最後の頁 142-169
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 板垣竜太	4. 巻 2019年5月
2. 論文標題 向き合うこと、顔をそむけること：三・一運動百周年と日本の植民地支配責任	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 世界	6. 最初と最後の頁 204-209
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福岡正章	4. 巻 72巻1号
2. 論文標題 1930年代の朝鮮における衣類調達について	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 経済学論叢(同志社大学)	6. 最初と最後の頁 57-74
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福岡正章	4. 巻 243号
2. 論文標題 朝鮮における繊維製品商社の一特徴-繊維専門商社と卸売商を中心に-	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 歴史と経済(政治経済学・経済史学会)	6. 最初と最後の頁 44-59
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宮本正明	4. 巻 第50号
2. 論文標題 取調記録を通じてたどる「二・八独立宣言」への道程	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 在日朝鮮人史研究	6. 最初と最後の頁 39-66
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 洪宗郁	4. 巻 第187号
2. 論文標題 植民地ファシズム 再論	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 東方学志(韓国・延世大学国学研究院)	6. 最初と最後の頁 43-62
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 洪宗郁	4. 巻 第76巻第3号
2. 論文標題 実証史学 理念 : 植民地朝鮮にきた歴史主義	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 人文論叢 (韓国・ソウル大学人文学研究院)	6. 最初と最後の頁 287-323
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 洪宗郁	4. 巻 第151号
2. 論文標題 日本歴史教科書の三一運動叙述分析	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 歴史教育 (韓国・歴史教育研究会)	6. 最初と最後の頁 29-59
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 洪宗郁	4. 巻 第57号
2. 論文標題 反日種族主義を読んで民族自決を考える	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 東亜文化 (韓国・ソウル大学東亜文化研究所)	6. 最初と最後の頁 119-134
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 洪宗郁	4. 巻 第77巻第3号
2. 論文標題 北韓歴史学形成にソ連歴史学が及ぼした影響	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 人文論叢 (韓国・ソウル大学人文学研究院)	6. 最初と最後の頁 13-58
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 洪宗郁	4. 巻 第118号
2. 論文標題 反ファシズム人民戦線論と社会主義運動の植民地的経路	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 歴史と現実 (韓国・韓国歴史研究会)	6. 最初と最後の頁 331-379
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宋炳巻	4. 巻 第188号
2. 論文標題 普遍への暴力? 総力戦体制下における米日人種主義の三重暴力構造	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 東方学志 (韓国・延世大学国学研究院)	6. 最初と最後の頁 45-68
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宋炳巻	4. 巻 第71号
2. 論文標題 解放 / 敗戦直後における韓国と日本の民族主義教育の比較研究	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 史林 (韓国)	6. 最初と最後の頁 1-28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宋炳巻	4. 巻 第63巻1号
2. 論文標題 連合国最高司令官総司令部の韓日占領と統治構造の重層性	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 亜細亜研究 (韓国・高麗大学)	6. 最初と最後の頁 79-116
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 太田修	4. 巻 2018年度
2. 論文標題 みずからの文化を創りだす - 梁民基と「マダン劇運動」、「マダン運動」 -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 2018年度 差別の歴史を考える連続講座 講演録	6. 最初と最後の頁 161-190
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 板垣竜太	4. 巻 128
2. 論文標題 映画「朝鮮の子」(1955)の製作プロセスをめぐって	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 評論・社会科学	6. 最初と最後の頁 39-104
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14988/pa.2019.0000000003	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 福岡正章	4. 巻 243
2. 論文標題 朝鮮における繊維製品取引の一特徴 繊維専門商社と卸売商を中心に	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 歴史と経済	6. 最初と最後の頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 洪宗郁	4. 巻 99
2. 論文標題 北韓の歴史学の3.1運動認識 主な通史類の関連叙述の分析	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 ソウルと歴史(ソウル)	6. 最初と最後の頁 153-203
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 洪宗郁	4. 巻 61
2. 論文標題 1950年代における北韓のバンドン会議と非同盟運動認識 雑誌『国際生活』記事を中心に	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 東北亜歴史論叢（ソウル）	6. 最初と最後の頁 375-406
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 洪宗郁	4. 巻 27-2
2. 論文標題 植民地期における尹日善の日本留学と医学研究	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 医史学（ソウル）	6. 最初と最後の頁 185-223
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宋炳巻	4. 巻 47
2. 論文標題 米国の植民地朝鮮認識の原型と地域主義的再解釈	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 アジア文化研究（ソウル）	6. 最初と最後の頁 143-169
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宋炳巻	4. 巻 69
2. 論文標題 戦後日本先進国談論の誕生と変化	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本文化研究（ソウル）	6. 最初と最後の頁 143-161
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 金鍾泰・宋炳卷	4. 巻 31
2. 論文標題 日本先進国談論の概念と特徴：日本新聞社説分析を中心に	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本研究（ソウル）	6. 最初と最後の頁 239-264
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 太田修	4. 巻 14
2. 論文標題 日韓条約の何が問題か - 「解決済み」論批判	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 ジェンダーと法	6. 最初と最後の頁 100-120
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ryuta Itagaki	4. 巻 6(1)
2. 論文標題 Language and Family Dispersion: North Korean Linguist Kim Sugyong and the Korean War	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Cross-Currents	6. 最初と最後の頁 151-176
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1353/ach.2017.0006	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宮本正明	4. 巻 706
2. 論文標題 日本敗戦以降の対馬をめぐる朝鮮・韓国人の在留・移動 1945年～60年代における概観	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 大原社会問題研究所雑誌	6. 最初と最後の頁 229-262
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 洪宗郁	4. 巻 179
2. 論文標題 植民者渡部学の教育論 韓国教育史研究の原点	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 東方学志 (韓国・延世大学國学研究院)	6. 最初と最後の頁 95-127
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 洪宗郁	4. 巻 44
2. 論文標題 李仁が回顧した解放前夜	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 愛山学報 (韓国・愛山学会)	6. 最初と最後の頁 229-262
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福岡正章	4. 巻 191巻1号
2. 論文標題 1950年代韓国における人絹織物業の再編	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 経済論叢 (京都大学)	6. 最初と最後の頁 41 ~ 56
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計37件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 3件)

1. 発表者名 Osamu OTA
2. 発表標題 Critique of Argument that Korea-Japan Claims Settlement Agreement Signifies "Resolution" -Focusing on the "Economic Cooperation" Method
3. 学会等名 "Korea-Japan Relations: Beyond the 1965 System" (Host: The Johns Hopkins SAIS Korea Studies & Korea Development Institute of School (KDIS))
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 太田修
2. 発表標題 眞実究明はなされたか - 日韓会談における韓国強制動員被害者問題
3. 学会等名 朝鮮史研究会関西部会2020年6月例会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 太田修
2. 発表標題 金大中拉致事件と日韓連帯運動のはじまり
3. 学会等名 科研(B)(一般)「日韓国交正常化交渉および戦後日韓関係に関する基礎的研究」研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 太田修
2. 発表標題 韓国大法院判決と再現する暴力について
3. 学会等名 歴史学研究会シンポジウム「日韓の歴史葛藤をほどく - 「徴用工」問題から考える - 」
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Osamu OTA
2. 発表標題 Critique of Argument that Korea-Japan Claims Settlement Agreement Signifies "Resolution" and the State of Japan in 2019 Summer
3. 学会等名 International Symposium for the Future-Oriented Korea-Japan Relations(Host: National Research Council for Economics, Humanities and Social Sciences)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 太田修
2. 発表標題 日韓連帯運動の出発点 - 金大中拉致事件
3. 学会等名 2019金大中民主平和アカデミー「国際学術会議金大中大統領の政治思想と国際理解」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 板垣竜太
2. 発表標題 銀閣寺の38 度線：日韓会談期京都の民族学校と地域社会
3. 学会等名 科研(B)(一般)「日韓国交正常化交渉および戦後日韓関係に関する基礎的研究」研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 福岡正章
2. 発表標題 日韓密貿易の展開～1950年代を中心に
3. 学会等名 科研(B)(一般)「日韓国交正常化交渉および戦後日韓関係に関する基礎的研究」研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 宮本正明
2. 発表標題 取調記録を通じてたどる『2・8独立宣言』への道程
3. 学会等名 3・1運動100周年記念学術会議「東京から咸興へ 日帝文書から見る2・8独立宣言と3・1運動」(主催：韓国・民族問題研究所)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 洪宗郁
2. 発表標題 東アジアの戦後歴史学と北韓の歴史叙述
3. 学会等名 台湾・中央研究院近代史研究所「民族主義、自由主義與社會主義的交錯抉擇：近代中韓歷史經驗的比較」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 洪宗郁
2. 発表標題 日本統治期時期区分試論
3. 学会等名 韓国・韓国史研究会「韓国史時代区分論の現況と課題」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 洪宗郁
2. 発表標題 1930年代植民地朝鮮の社会性格論争：史的唯物論と植民地問題
3. 学会等名 韓国・ソウル大学奎章閣韓国学研究院第13回奎章閣韓国学国際シンポジウム
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 洪宗郁
2. 発表標題 日本学界の中国リベラリズム研究
3. 学会等名 梨花女子大学史学科「冷戦史研究の動向と展望」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 洪宗郁
2. 発表標題 1930年代マルクス主義歴史学のアジア認識と朝鮮研究
3. 学会等名 韓国・仁荷大学韓国学研究所「植民地朝鮮の社会主義：民族、階級、ジェンダー」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 金丞垠
2. 発表標題 被害者の証言は何を「証言」するのか
3. 学会等名 3・1運動100周年記念学術会議 韓日共同シンポジウム「韓日ニューライトの「歴史否定」」（主催：近現代史記念館、主管：民族問題研究所）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 太田修
2. 発表標題 日韓財産請求権「経済協力」構想の再考 - 植民地支配正当論、冷戦、経済開発
3. 学会等名 シンポジウム「韓日関係研究の新地平」 / 主催：国民大学校日本学研究所、後援：東北亜歴史財団
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 太田修
2. 発表標題 日朝国交正常化を考える
3. 学会等名 科研（B）（一般）「日韓国交正常化交渉および戦後日韓関係に関する基礎的研究」研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Ryuta Itagaki
2. 発表標題 Romantic Motives in Cold War Area Studies: Vincent Brandt's Anthropological Research into Korean Peripheries
3. 学会等名 AAS-in-ASIA Conference 2018 (The Association for Asian Studies and Ashoka University) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 福岡正章
2. 発表標題 日韓密貿易の展開～1950年代を中心に
3. 学会等名 科研(B)(一般)「日韓国交正常化交渉および戦後日韓関係に関する基礎的研究」研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 宮本正明
2. 発表標題 鈴木久美報告「在日朝鮮人の『帰国』 1945～1946年における日本政府とGHQによる政策を中心に」に対するコメント
3. 学会等名 科研(C)(一般)「アジアの冷戦と女性たちの記憶 転換期における地域・アクターの視点から」第1回公開研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 洪宗郁
2. 発表標題 Kajimura Hideki's Criticism of 'Park Chung-Hee Modernity
3. 学会等名 AAS-in-ASIA Conference 2018 (The Association for Asian Studies and Ashoka University) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 洪宗郁
2. 発表標題 3・1運動と非植民地化 (decolonization)
3. 学会等名 科研(B)(一般)「日韓国交正常化交渉および戦後日韓関係に関する基礎的研究」研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 洪宗郁
2. 発表標題 植民地ファシズム 論再考
3. 学会等名 韓国・方基中教授追慕学術大会準備委員会「韓国近現代思想史研究の成果と展望」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 洪宗郁
2. 発表標題 近代日本の共和制言説 中国と韓国の政治変動への反応を中心に
3. 学会等名 韓国・ソウル大学国際学研究所「近代韓国と東アジアにおける共和の言説と進化」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 金丞銀
2. 発表標題 韓半島内の日帝による人命被害調査の現況と課題
3. 学会等名 近現代史記念館国際学術会議「虐殺、原爆、強制動員を語る - 調査の現況と課題」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 金丞銀
2. 発表標題 学校と博物館は「日帝強占期」をいかにあつかうか? - 教科書が見落とした事実、植民地歴史博物館が植民地歴史博物館が展示する歴史
3. 学会等名 科研(B)(一般)「日韓国交正常化交渉および戦後日韓関係に関する基礎的研究」研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 太田修
2. 発表標題 日韓財産請求権「経済協力」構想 - 植民地主義、冷戦、経済開発
3. 学会等名 科研(B)(一般)「日韓国交正常化以後の請求権および歴史認識問題の展開過程の検証」研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 板垣竜太
2. 発表標題 映画「朝鮮の子」(1955)の製作過程をめぐって
3. 学会等名 科研(B)(一般)「日韓国交正常化交渉および戦後日韓関係に関する基礎的研究」研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 宮本正明
2. 発表標題 在日朝鮮人の『戦時』と『戦後』 『戦争協力』との関係を中心に
3. 学会等名 啓明大学校国境研究所第2回国際学術会議「近代東アジアにおける経済国境とヒトの移動」(主催:啓明人文力量強化事業団、啓明大学校国境研究所)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 洪宗郁
2. 発表標題 Critique of the Modernization Theory and Discovery of “People” in Japan in the 1960s
3. 学会等名 28th AKSE (The Association for Korean Studies in Europe) Conference (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 洪宗郁
2. 発表標題 1950年代北朝鮮の非同盟運動認識
3. 学会等名 韓国・東北亜歴史財団主催学術会議「東アジア冷戦史の再構成」
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 太田修
2. 発表標題 【書評】文京洙『新・韓国現代史』岩波書店、2015年
3. 学会等名 朝鮮史研究会関西西部会2016年4月例会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 太田修
2. 発表標題 日韓条約の何が問題か - 「解決済み」論批判
3. 学会等名 ジェンダー法学会公開シンポジウム「戦時性暴力と法 - 慰安婦問題と戦後補償 - 」
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 板垣竜太
2. 発表標題 From Stalin to Kim Il Sung in Linguistics: Theoretical Authority and Language Reform in North Korea
3. 学会等名 The 2nd TUDOKU Conference, The Sacred and the Secular: Power and Authorities in Modern East Asia
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 板垣竜太
2. 発表標題 解放前後金壽卿の研究業績とその活動(コリア語による報告)
3. 学会等名 国語学会(韓国)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 板垣竜太
2. 発表標題 言語学と政治：北朝鮮(朝鮮民主主義人民共和国)の言語政策における金ドゥボンと金壽卿の役割を中心に
3. 学会等名 朝鮮史研究会関西西部会2017年1月例会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 福岡正章
2. 発表標題 書評 金早雪『韓国社会保障経済の政治・経済学』(新幹社、2016年)
3. 学会等名 朝鮮史研究会関西西部会2017年3月例会
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計17件

1. 著者名 太田修、西村直登、申載浚、宮本正明、板垣竜太、成田千尋、福岡正章、宋炳巻、洪宗郁	4. 発行年 2021年
2. 出版社 同志社コリア研究センター	5. 総ページ数 376
3. 書名 植民地主義、冷戦から考える日韓関係	
1. 著者名 内海愛子、川上詩朗、吉澤文寿、太田修、加藤圭木、殿平善彦、本庄十喜、慎蒼宇、佐藤広美、加藤直樹、原田敬一	4. 発行年 2020年
2. 出版社 新日本出版社	5. 総ページ数 254 (72 ~ 95)
3. 書名 日韓の歴史問題をどう読み解くか - 徴用工・日本軍「慰安婦」・植民地支配	
1. 著者名 吉澤文寿、李洋秀、金恩貞、太田修、浅野豊美、長澤裕子、山本興正、金崇培、成田千尋、金鉉洙	4. 発行年 2020年
2. 出版社 社会評論社	5. 総ページ数 336 (104 ~ 132)
3. 書名 歴史認識から見た戦後日韓関係	
1. 著者名 李鍾元、木宮正史、平井久志、文正仁、尾形聡彦、朱建栄、田中均、太田昌克、太田修	4. 発行年 2018年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 155 (141 ~ 155)
3. 書名 朝鮮半島危機から対話へ - 変動する東アジアの地政図	

1. 著者名 谷ヶ城秀吉、須永徳武、駒込武、松田利彦、加藤圭木、竹内祐介、平山勉、清水美里、林采成、李海訓、安達宏昭、大浜郁子、湊照宏、金富子、都留俊太郎、細谷亨、千住一、古川宣子、小野容照、鈴木哲造、末永恵子、青野正明、青井哲人、波多野節子、高媛、三ツ井崇、宮本正明、兒玉州平、吉井文美、加藤聖文、水谷智、松本武祝ほか	4. 発行年 2018年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 320 (194 202)
3. 書名 日本植民地研究の論点	

1. 著者名 木村健二、尹裕淑、金明洙、柳沢遊、李盛煥、今泉裕美子、宮本正明、崔範洵	4. 発行年 2019年
2. 出版社 日本評論社	5. 総ページ数 272 (41-46, 191-224)
3. 書名 近代朝鮮の境界を越えた人びと	

1. 著者名 松田利彦、春山明哲、中生勝美、顔杏如、曾文亮、岡崎まゆみ、やまだあつし、本間千景、蔡龍保、川瀬貴也、宮崎聖子、加藤道也、劉士永、長沢一恵、山本浄邦、小野容照、紀旭峰、何義麟、通堂あゆみ、鄭鍾賢、朴潤栽、宋炳巻、洪宗郁ほか	4. 発行年 2019年
2. 出版社 思文閣出版	5. 総ページ数 980 (869-897)
3. 書名 植民地帝国日本における知と権力	

1. 著者名 太田修、許殷、鄭晒旭、板垣竜太、金元、Suzy Kim、原祐介、土屋由香、沈載謙、富山一郎、李海燕、鄭栄桓、王恩美	4. 発行年 2017年
2. 出版社 ソミヨン出版(ソウル)	5. 総ページ数 584(3-11, 53-101, 167-224)
3. 書名 東アジア冷戦の文化	

1. 著者名 宮本正明、通堂あゆみ、辻大和、植田喜兵成智、松浦峻大、小室翔子	4. 発行年 2018年
2. 出版社 学習院大学東洋文化研究所	5. 総ページ数 37(3-37)
3. 書名 「未公開資料朝鮮総督府関係者録音記録」総索引(人名編)	

1. 著者名 洪宗郁、戸邊秀明、米谷匡史、崔真碩	4. 発行年 2017年
2. 出版社 ソウル大学出版文化院(ソウル)	5. 総ページ数 667(13-21, 281-307)
3. 書名 植民地知識人の近代超克論	

1. 著者名 河内春人、澤本光弘、関周一、木村直也、松田利彦、太田修	4. 発行年 2017年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 386(323-386)
3. 書名 日朝関係史	

1. 著者名 吉澤文寿、太田修、李洋秀、金昌祿、金丞銀、矢野秀喜、五味洋治、金鉉洙、前田朗、阿部浩己	4. 発行年 2016年
2. 出版社 社会評論社	5. 総ページ数 223(25-49)
3. 書名 五〇年目の日韓つながり直し	

1. 著者名 トシファン、Alexis Dudden、太田修、馬光、戸塚悦郎、前田朗、ソクグァンヒョン、管建強、チイクピョ、李洋秀、イジニ、樋口直人、荒井信一、イヨンチェ、勝村誠	4. 発行年 2016年
2. 出版社 歴史空間(ソウル)	5. 総ページ数 440(73-97)
3. 書名 韓日協定50年史の再照明 - 韓日協定50年の省察と平和共同体の模索 -	

1. 著者名 板垣竜太、鄭炳旭、駒込武、太田修、廉仁鎬、李松順、安勝澤、李成浩、金ソンヨン	4. 発行年 2017年
2. 出版社 同志社コリア研究センター	5. 総ページ数 316(1-9, 52-141)
3. 書名 日記からみた東アジアの冷戦	

1. 著者名 堀和生、林采成、湊照宏、趙祐志、許世融、福岡正章、堀内義隆、裴錫満	4. 発行年 2016年
2. 出版社 京都大学学術出版会	5. 総ページ数 371(243-271)
3. 書名 東アジア高度成長の歴史的起源	

1. 著者名 今泉裕美子、柳沢遊、木村健二、宮本正明	4. 発行年 2016年
2. 出版社 日本経済評論社	5. 総ページ数 387(31-82, 327-349)
3. 書名 日本帝国崩壊期「引揚げ」の比較研究	

1. 著者名 服藤早苗、須田努、吉野誠、小川原宏幸、北原スマ子、千葉功、青木然、趙景達、宮本正明ほか	4. 発行年 2016年
2. 出版社 大月書店	5. 総ページ数 310(187-206)
3. 書名 隣国の肖像 日朝相互認識の歴史	

〔産業財産権〕

〔その他〕

同志社大学ホームページ https://kendb.doshisha.ac.jp/profile/ja.2d77ee687a92d572.html 同志社大学学術リポジトリ https://doshisha.repo.nii.ac.jp/index.php?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_snippet&index_id=8723&pn=1&count=50&order=7&lang=japanese&page_id=13&block_id=100 日韓会談文書情報公開アーカイブズ http://www.f8.wx301.smilestart.ne.jp/nikkankaidanbunso/index.php
--

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	板垣 竜太 (ITGAKI RYUTA) (60361549)	同志社大学・社会学部・教授 (34310)	
研究分担者	福岡 正章 (FUKUOKA MASAOKI) (90388041)	同志社大学・経済学部・教授 (34310)	
研究分担者	宮本 正明 (MIYAMOTO MASAOKI) (20370207)	大阪経済法科大学・公私立大学の部局等・研究員 (34427)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	洪 宗郁 (HONG JONG-UK)		
研究協力者	宋 炳巻 (SONG BYONG-KUWON)		
研究協力者	金 丞垠 (KIM SEUNG-EUN)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
韓国	民族問題研究所			